

子午線で地球を分ける！？

トルデシリャス条約、サラゴサ条約

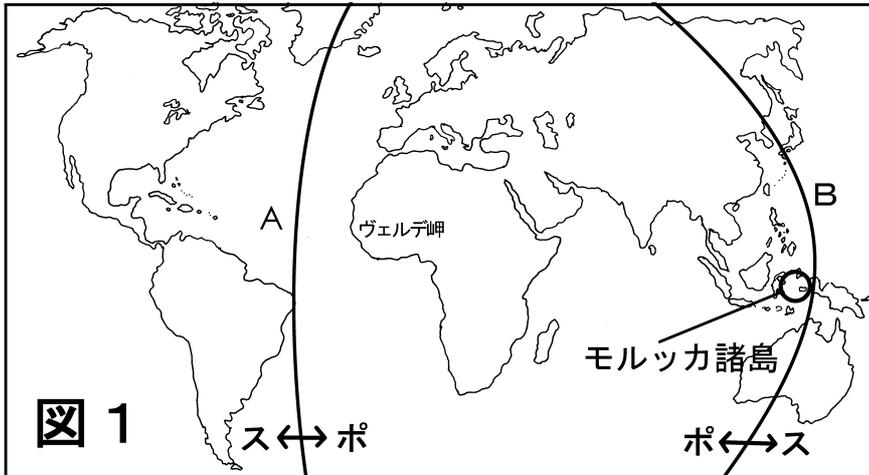


図1のA、Bのカーブは子午線であり、北極と南極を結ぶ同形の円弧であるが、図法の都合でこのように表現される。

1) Aは、スペインに支援されたコロンブスの「アジア到達」(1492年)の報に接した教皇【1: **アレクサンデル6世**】(位1492-1503)が、1493年にヴェルデ岬西方の子午線をもって設定した植民地分界線である。「教皇子午線(きょうこうしごせん)」と言う。この線より東がポルトガル、西がスペインの勢力圏。これによれば、アメリカ大陸全体にスペインが優先権を持つ  
注：教皇アレクサンデル6世は、スペイン出身だったので便宜を図った。

2) 1494年、スペイン、ポルトガル両国は、協議の結果、【2: **トルデシリャス条約**】(厳密にはレグア) ※1 移動させた。教皇ユリウス2世もこれを承認しAの境界線は正式に破棄された。これによって、【3: **ポルトガル領**】はポルトガル領になった。教科書、図説参考書などを参考に、図1に【2】による新しい植民地分界線を記入せよ。

だから、ブラジルはアメリカ大陸で唯一のポルトガル領で、現在も公用語はポルトガル語。日本とこの国の結びつきは深く、アントニオ猪木さんはブラジル移民として過酷な労働に耐えた体験を持つ。

※1 リーグは国や時代によって異なる海上の距離単位で、3.8〜7.4キロメートルの範囲。当時のスペインではレグアと呼び、約5.91kmである。フランスだと約4.4km。

3) 一方、アジアにおけるスペイン、ポルトガルの勢力分界はあいまいだった。1529年、スペインが【4: **サラゴサ条約**】をポルトガルに売却し、【5: **メルカトル線**】を締結して両国の勢力範囲が確定した。これが図1のBの分界線である。

アメリカ大陸に関する認識

次の4人の重要人物の業績を通じてアメリカ大陸に関する知見の拡大を整理しよう。

1) 【6: **クリストファー・コロンブス**】(1454-1512フィレンツェ)は、**新大陸の確認者**である。天文・地理に通じ4回も探検し、1501年からの探検の航海報告で、この地はアジアではないと結論した。1507年、ドイツの地理学者ヴァルトゼーミュラーが、彼の名にちなんで「アメリカ」という表現を使用して以来一般化したと言われる。なお「新大陸」という表現も、ここがアジアでないかと判明して以降の名称。

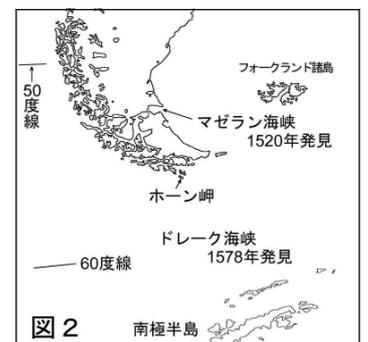
「コロンビア」と言えば南米にあるコロンビア共和国、コーヒーの品種名、スペースシャトル2号機(1号機は大気圏内用実験機なので実質初めて宇宙空間を飛んだ名誉ある機体)の愛称、東京ディズニーシーにある豪華客船の名称、そして**アメリカ合衆国の雅名**でもある。首都ワシントンD.C.の「D.C.」とは“The District of Columbia”(コロンビア特別区)の略で、アメリカ大陸の「発見」者クリストファー・コロンブスにちなんだ名であり、アメリカ合衆国はコロンブスの功績に敬意を払っているのである。

2) **カボット**(父子)も覚えておこう。ジョバンニ(父1451?-98?)はイギリスのヘンリ7世の後援で1497、98年の2回、**現在のニューファンドランド、北アメリカ沿岸**を探検。セバ스티アーノ(子1476?-1557)は、ヘンリ8世の後援で**ハドソン湾**を探検した。フランスも16世紀初めに現カナダのセントローレンス川付近を探検した。

3) 【7: **ペドロ・アルヴァレス・カブラル**】(1460?-1526ポルトガルの提督)は、1500年、任務でアジアに向かう途中、嵐で遭難、現在のブラジルに漂着した。彼は、**ポルトガル王の名において、ブラジルの領有を宣言**した。すでに前掲のトルデシリャス条約(1494)でポルトガル領であることが認められていたが、カブラルの漂着で確定。**ブラジルは南米唯一のポルトガル領**となった。今日、世界のサッカー大国ブラジルにサッカー修行に向かう青少年はポルトガル語を学ぶ。

4) **バルボア**(1475?-1517スペイン)は、**パナマ地峡を横断して太平洋に達し、「南の海」と命名**した。彼の名声を恐れたパナマ総督により反逆罪で処刑された。なお、「太平洋」の命名者は**フェルディナンド=マゼラン**である。1520年か21年、世界一周航海の途上、荒れ狂うマゼラン海峡を抜けたとたんにと穏やかな大洋に入ったので、「El Mare Pacificum」(訳：平和な海)と表現した、あるいはそこからセブ島までの間、暴風に遭わなかったためにそう表現したとも言われる。

5) 1519年、【8: **フェルディナンド=マゼラン**】(1480?-1521マグリヤニス)は、ポルトガル人なのにスペイン王【9: **カルロス1世**】(位1516-1556神聖ローマ皇帝カール5世でもある)の援助をうけて、**西回り**でモルッカ諸島に達する航路を開発するため、1519年セビリアを出帆し、1520年10月21日、4隻で南アメリカ南端の水路(マゼラン海峡)に進入、11月28日、38日間かけて海峡を通過。3隻が太平洋を横断、1521年フィリピン諸島に達した。マゼランはここでマクタン島のラブラブ王の抵抗にあい戦死したが、部下18名は航海を続け、喜望峰を回り、1522年、1隻でパロス港に帰還し、初めて**世界周航を実現**。地球が球体であることが実証された。



マゼランは南アメリカ大陸はもっと南まで続いており、マゼラン海峡が太平洋に出る唯一の水路だと信じていた。約半世紀後の1578年、後にアルマダ艦隊を撃破するイギリスのフランシス=ドレーク 1543?-1596 が、偶然、ホーン岬と南極大陸の間の海峡（ドレーク海峡）を発見し、これ以降ここが南アメリカ南端回りの主な航路となった。しかし、「吠える40度線、狂える50度線、絶叫する60度線」と言われるように南極圏に近づくほど常時暴風雨が吹きまくる、現代の最新鋭鋼鉄船の操船者をも緊張させる危険な海域を越えるため、また太平洋があまりにも広いため、ヨーロッパから南米南端を回って太平洋を越える西回りアジア航路が実用化されることはなかった。

## ポルトガル・スペインの冒険的航海者たちの「功績」

ここで、これまでに学んだことをまとめておこう。出帆港・帰還港まで出題された例もある。

冒険的航海者名	後援者or命令者 (国)	出帆年代・港	帰還年代・港
①バルトロメウ=ディアス 功績	ジョアン2世 (ポ)	1488・リスボン	1488・リスボン
②ヴァスコ=ダ=ガマ (初回) 功績	マヌエル1世 (ポ)	1497・リスボン	1499・リスボン
③コロンブス (初回) 功績	イサベル女王 (ス)	1492・パロス	1493・パロス
④マゼラン その死後は部下たち 功績	カルロス1世 (ス)	1519・セビリア	1522・パロス

以下の図3に上記①～④のおよその航路を、教科書、図説参考書などを参考に示しなさい。

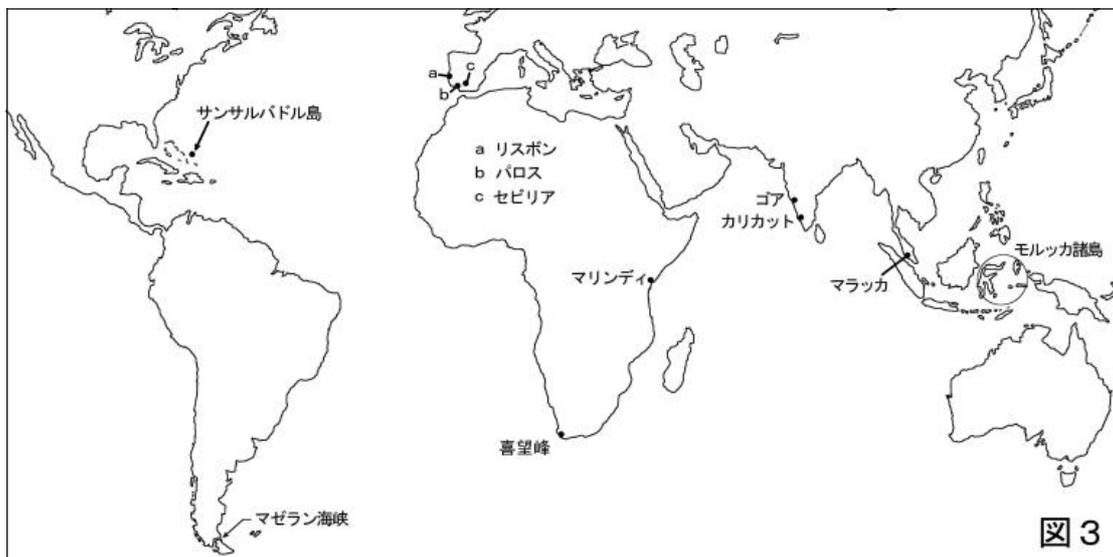


図4は図3の、どの部分を拡大したものか。図3に□を記入して示せ。

図4の境界線、海岸線は現代のものである。

図4において、前掲一覧表の①～④が出帆、帰還した港に、①出・帰、・・・④出、④帰 のように番号をつけて示せ。

リスボンはポルトガルの首都でもある。

セビリアは内陸にあるが、航行可能な河川によって海に通じている。

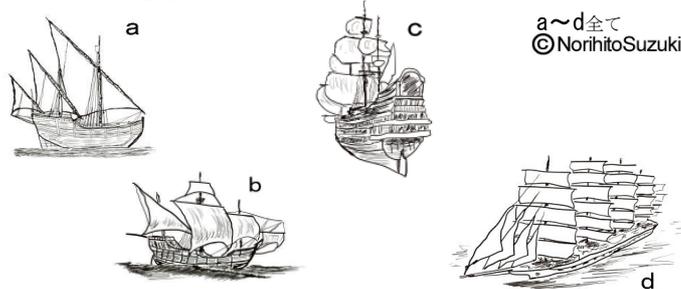
コルドバはかつて後ウマイヤ朝の首都だった。

カディス、パロスの位置もチェックしよう。

セウタを含む半島の先端部、メリリヤを含む半島の中央部は、それぞれ今日、スペインの領土である。

《帆船の発達》

あくまでイメージです



a～d全て  
©NorihitoSuzuki

- a カラベル船 (エンリケ航海王子) 15世紀  
↓ 3本マスト、ラテン帆※2、中央舵、小型快速
- b カラック船 (サンタマリア号) 15世紀  
↓ 前2本は長方形の帆、3本目はラテン帆  
大型化で積載量、乗員数アップ、高い船楼
- c ガレオン船 16世紀前半に登場  
↓ 多層甲板、重武装、低い船楼。本来は戦闘艦
- d クリッパー 19世紀

細長い船体。最速の帆船。

※2 ラテン帆 (ほ) は大三角帆とも言う。

帆船の種類については、これらよりも、ムスリム商人が使うダウ船と中国人商人が使うジャンク船の区別の方が《頻出》である。